

## 新品種「てんたかく」\* (富山57号) の品種特性について

～暑さに負けない、美味しく品質の良いお米を届けます！～

### 1. はじめに

近年、かつてない猛暑が続き、登熟期間の異常高温により、「コシヒカリ」や「ハナエチゼン」など富山県の主要品種の品質が著しく低下してしまうという状況が4年連続で起こっています。

そこで、このような厳しい高温登熟条件下でも品質が安定して高く、かつ、良食味の早生品種を育成しました。

### 2. 育成経過の概要

「てんたかく」は、平成4年度に「越南146号」(後の「ハナエチゼン」)を母、「東北143号」(後の「ひとめぼれ」)を父として人工交配を行い、その後代から、特に品質が良く、倒伏に強い早生品種を目的に選抜をしてきた系統です。平成10年から奨励品種決定試験や

高温登熟性の検定を行い、また、平成12年以降は、現地試験での適応性の評価を行ったところ、高温登熟条件においても、品質・食味などの成績が優良であることが確認されました。

### 3. 品種の特徴

「てんたかく」は、出穂、成熟期が「ハナエチゼン」より2日程度遅く、また、「ひとめぼれ」より4日程度早い早生品種です(表1)。稈長は「ハナエチゼン」並で、稈質はしなやかで耐倒伏性は高い。穂数は「ハナエチゼン」よりやや多く、収量性は「ハナエチゼン」、「ひとめぼれ」とほぼ同等です。

特に、玄米品質が高温登熟条件下でも安定して良いのが特徴であり(表2)、「てんたかく」は基白、背白粒の発生が「ハナエチゼン」より少なく、「ひとめぼれ」より明らか

表1 奨励品種決定調査成績の概要(農試圃場、平成10～14年度の試験成績の平均値)

系統名又は品種名	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	注1) 精玄米重 (kg/a)	同左 比 (%)	障害 <sup>注2)</sup>		玄米 千粒重 (g)	整粒 比率 (%)	注3) 食味 官能値	注4) 味 度 値	玄米 白度	注5) 精米 白度	注6) 精米 蛋白 含量 (%)
								倒伏 程度	紋 枯 病							
てんたかく	7.17	8.22	69.2	19.2	458	55.2	103	0.0	0.7	22.1	85.0	-0.15	70.8	20.3	39.9	5.46
(比) ハナエチゼン	7.15	8.20	69.0	17.8	441	53.8	100	0.1	0.6	22.6	81.1	-0.22	70.4	20.5	40.0	5.68
(比) ひとめぼれ	7.21	8.26	73.1	18.4	452	55.9	104	0.9	0.7	22.7	71.9	-0.10	72.8	19.8	39.6	5.30

注1) 14年度は1.9mm以上の粒厚の値、  
10～13年度は1.85mm以上の値

注2) 0(無)～5(甚)で達観調査

注3) 農試産食味基準用コシヒカリを0.00とし、  
値が大きいほどおいしい

注4) トーヨー味度メーターMB-90Aを使用して測定

注5) 90%搗精時の白度

注6) 90%搗精時の蛋白含量を水分含量15%で換算、  
インフラライザー260を使用

表2 玄米品質の内訳(奨励品種決定調査、平成13～14年度の平均値)

系統名又は品種名	整粒	基白	背白	腹白	乳白	心白	淡茶	奇形	活青	青未熟	斑点	死米
てんたかく	86.3	3.0	2.6	0.1	0.0	0.3	3.8	0.6	0.6	2.3	0.4	0.2
(比) ハナエチゼン	78.1	5.0	4.0	1.8	2.7	2.5	3.6	0.8	0.6	2.6	0.2	0.1
(比) ひとめぼれ	64.2	16.7	5.6	0.7	1.8	0.5	2.5	0.8	1.2	5.8	0.3	0.1

\* 品種登録申請中

くなりました。さらに、人工的に登熟期間の温度を高めた高昼温処理、高夜温処理においても、「てんたかく」は他品種と比較して基白、背白粒など白未熟粒の発生が少なくなることが確認されました(図1、2)。また、「ハナエチゼン」で散見される腹白、乳白、心白粒の発生も少なく、青未熟粒の混入も「ひとめぼれ」より明らかに少なくなりました。加えて、高温登熟条件下だけでなく、寡照条件における適応性を調べた試験においても、「てんたかく」の品質は他の品種に比べて高いことが明らかになり、気象変動に対する強さも確認されました。

#### 4. 現地試験及び市場評価

今年度は県内8ヶ所、のべ4.1haにおいて試験栽培を行いました。その全量が1等に格付けされました。平均の整粒比率は78.1%と高く、土壤地帯別にみると、特に壤土～埴壤土など地力の高い地域(小杉、高岡、小矢部)で

は品質が優れ、収量性も高い傾向にありました。

また、市場評価として、高岡市において2ha栽培した出荷米を卸業者に評価してもらったところ、品質、搗精特性、食味の全てにおいて対照の「ハナエチゼン」より優れるとの評価を得ています。

#### 5. 栽培上の留意点

耐倒伏性が強く、栽培しやすい品種ではありますが、過剰な施肥は食味を低下させるので避けてください。

また、今年度は7月中旬の長雨と8月上旬の高温のため、早生で紋枯れ病が発生しやすくなりました。このため現地試験の「てんたかく」でも若干の発病がみられました。ただし、適切な中干しや防除が行われた圃場においては発生程度も低く、収量、品質への影響は見られませんでしたので、紋枯病に対する基本技術の徹底が重要と考えられます。

(作物課 山口 琢也)

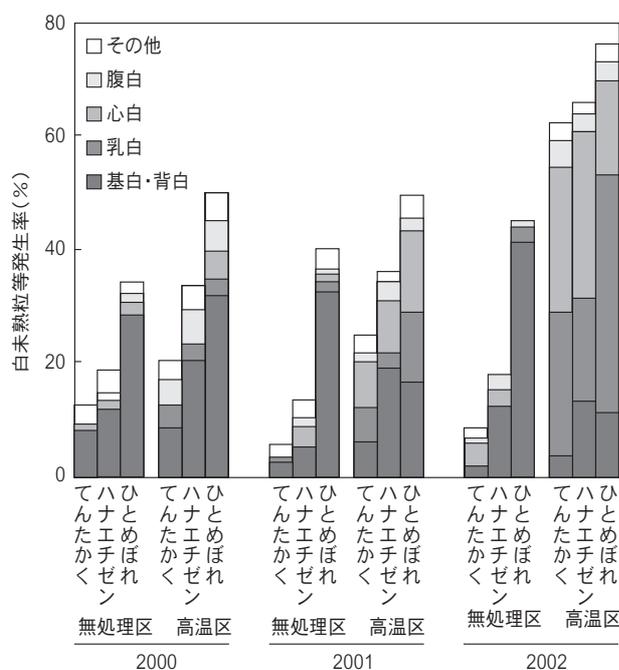


図1 高昼温処理による高温登熟性検定

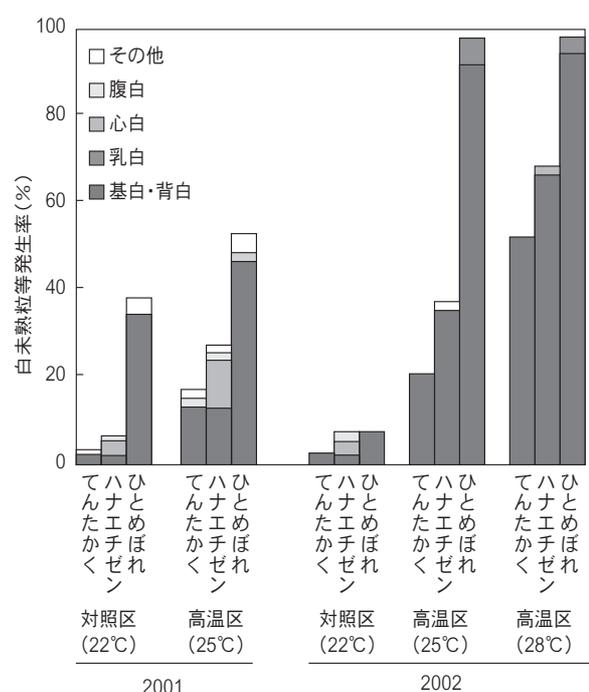


図2 高夜温処理による高温登熟性検定